

図の上部と左下部には、次の詞章がある。

当ル卯の清元連中  
臯月狂言

明烏今朝噂 ● 佐藤七蔵  
左團次

■ 玉橋お伝  
菊五郎

けふ浅草へつれだつてくるのさへおれ

にうれしいのに夫婦のつもり

で此うちへさしでとまるへ

むずぶのえん今夜ハどふか

はれそうだなこんなに酒を

のまにやアよかつたドし蚊やへ

はいつて寝て待う 上 折ふしふり

来る雪ふゞき内にハ亭主がうら

里を庭の古木にくゝり付ケ ■ 七蔵さん

お休ミなすつたかへ ● あんまり蚊が

多いから中へはいつたおめへもはやへ

はいんねへ ■ 今夜爰へとまつた事を内へ

しらしてやりたいから一寸其事を書く

あひだ寝ずにまつてゐて下さいまし

あしたてもいじやアねへか■インエ今

夜ゆうびん箱へ出して置とあした早く

とゞきますから●そついふことならはやく

書てしまひねへ■矢立をかしておくん

なさいよ上 浦里後を見おくりてわかれとなれバ

いまさらになミだにくれてゐたりしが■のめぬお酒

をのんだせへかなんだかむねがどきくと

ふでをもつ手がふるへてならぬ上 ぎのぶの

花ハけふの夢今ハ我身につまされて義理といふ字ハぜひ

もなや■今寝ますよ上 狂気の如く心もみだれ

泪の雨に雪解て●モウ吞ねへ上 せんごしやうたい

なかりけり■いづぞや浜で見た夢から顔を見る

のもいやな七蔵夫も可愛い男のため金が

ほしさに一ツ 幅ツ枕に心解三途の川へ行事も

知らぬが 仏高 いびき不便ながらも鬼になり地

獄稼 もしてきたお伝手引で冥土へ送つて

やらうか上 男ハかねて用意の一ト一し口にくわへて身をかため忍びとせ

家根づたひ見るにうら里うれしやと悲しきわさあぶな

さに可愛と一ト声明がらすのちのうきなやのこるらん